

高専生の性意識・性行動に関する調査研究（第2報）

—本校1年生における最近4年間の現状から—

石尾 潤*, 藤岩 秀樹*, 中村 貢治*, 西田 益子**

A Study on Sexuality Consciousness and Sexuality Behavior in Colleges of Technology Students (2)

—A Present Condition of First Grader in Ube National College of Technology
in Four Recent Years—

Jun ISHIO*, Hideki FUJIIWA*, Kouji NAKAMURA*, Masuko NISHIDA**

Abstract: The purpose of this study is clarifying sexuality consciousness and sexuality behavior in colleges of technology students. The subjects of this investigation were 620 male and 182 female of first grader in ube national college of technology students.

The results are summarized as follows:

- 1) The male students' sexual concern was higher than the female students.
- 2) 7.9% of the male students had experienced sexual intercourse, 23.1% female students.
- 3) Many of students are consulting with a friend on worries about sexual.
- 4) Many of the female students want to know about pregnancy, elective abortion, and sexually transmitted disease.

Key words: technical college students, sexuality consciousness, sexuality behavior

1. はじめに

近年、青少年の性意識や性行動に関する調査研究¹⁻⁵⁾において、若者の性意識は多様化し、性行動は開放的になり、若者が性に対して寛容であるとか、活発な行動をとる傾向にあるということが報告されている。また、それら性行動の特徴として、低年齢化、男女間の縮小傾向にあり、特に女子が積極化・開放化していることが指摘されている⁶⁻⁸⁾。このことは、若者の望まない妊娠や人工妊娠中絶を増加させる⁹⁾ことにつながっているものと危惧され、男女の性意識、性行動における意志決定能力の

育成⁹⁾、さらには現在の若者の性に関する意識・行動の実態に基づいた適切な指導や不安、悩みを相談できる体制の確立求められている⁸⁾。

しかしながら、青少年の性意識や性行動の実態を把握しようとした場合、高校生を対象にした報告は多数見られるが、高専生を対象とした報告はほとんど見当たらないという事実と直面した。

本校では、1年生の「保健」授業において、これら「性」の問題を取り上げ、講義を行っているが、この際、活用する各種統計・資料、及び指導内容が本校学生の実態に即したものであるのか疑問であった。

これらのことから我々は、彼らの実態に即した性教育を展開するための基礎資料を得ることを目的とし、平成15年度より本校1年生を対象に性に関する調査を実施し

(2007年11月26日受理)

*宇部工業高等専門学校 一般科体育教室

**宇部工業高等専門学校 学生課保健室

表1. 性意識と性行動 (n=802)

| | ある | | ない | | どちらともいえない | | 未回答 | | χ^2 検定 |
|------------|-----------|----------|-----------|-----------|-----------|----------|---------|--------|-------------|
| | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | |
| 性に関する関心 | 385(62.1) | 69(37.9) | 78(12.6) | 33(18.1) | 156(25.2) | 78(42.9) | 1(0.2) | 2(1.1) | *** |
| 性に関する悩みや不安 | 79(12.7) | 32(17.6) | 439(70.8) | 107(58.8) | 80(12.9) | 34(18.7) | 22(3.5) | 9(4.9) | * |
| 異性への接近欲求 | 314(50.6) | 60(33.0) | 142(22.9) | 63(34.6) | 163(26.3) | 58(31.9) | 1(0.2) | 1(0.5) | *** |
| 交際申し込み経験 | 221(35.6) | 71(39.0) | 348(56.1) | 95(52.2) | 50(8.1) | 15(8.2) | 1(0.2) | 1(0.5) | ns |
| デート相手 | 91(14.7) | 54(29.7) | 475(76.6) | 107(58.8) | 51(8.2) | 20(11.0) | 3(0.5) | 1(0.5) | *** |
| キス経験 | 157(25.3) | 79(43.4) | 404(65.2) | 85(46.7) | 51(8.2) | 16(8.8) | 8(1.3) | 2(1.1) | *** |
| ベッティング経験 | 81(13.1) | 44(24.2) | 475(76.6) | 106(58.2) | 51(8.2) | 26(14.3) | 13(2.1) | 6(3.3) | *** |
| 性交経験 | 49(7.9) | 42(23.1) | 506(81.6) | 118(64.8) | 33(5.3) | 15(8.2) | 32(5.2) | 7(3.8) | *** |

***: $p < 0.001$, *: $p < 0.05$

てきた。

この度、前回の報告¹¹⁾からさらに対象者数を増やし、最近4年間の性意識・性行動に関する調査結果について総括することができたので報告する。

2. 研究方法

2.1. 調査対象

対象は、平成15年度～平成18年度に本校1年生に在籍した学生述べ802名(男子620名、女子182名)であった。

2.2. 調査内容

- 1) 性に関する関心の有無
- 2) 異性への接近欲の有無
- 3) 交際申し込み経験の有無
- 4) 性交経験の有無および時期
- 5) 性に関する悩みの有無および相談相手
- 6) 性に関する情報源
- 7) 性に関する知りたい内容
- 8) 交際相手から性交を求められた際の対応

2.3. 調査方法および調査時期

2004年～2007年の1～2月に「保健」授業時に無記名自記式による質問紙調査を実施した。なお、調査用紙の回収は個人のプライバシーを保護するため密閉された箱の中に投函する方法をとった。

2.4. データ解析

得られた回答は、誤記入があった項目については、その都度分析対象から除外し、単純集計ならびに男女間での比較分析をおこなった。また、解析において比の差の検定が必要な場合には χ^2 検定を実施した。これら一連の統計解析にはStatView 5.0 Windowsを使用し、分析結果の有意水準については5%未満の危険率で判定を行った。

3. 結果及び考察

3.1. 性意識および性行動について

表1には、本校1年生の性意識および性行動の回答結果をそれぞれ示した。

「性に関する関心」では「ある」と回答した男子は62.1%、女子は37.9%であり、男女間に有意差が認められた($p < 0.001$)。また、「ない」と回答した男子は12.6%、女子は18.1%であった。しかし、入谷仁士ら⁸⁾による「高校生の性意識及び性行動に関する研究」では、「ある」と回答した男子は71.4%、女子は63.4%であり、男女間に有意差は認められず、全体で70%前後と高い割合を示していることを報告している。この結果、本校1年生女子の「ある」と回答した割合が低値であることが分かった。

「異性への接近欲求」では「ある」と回答した男子は50.6%、女子は33.0%であり、男女間に有意差が認められた($p < 0.001$)。

「交際申し込み経験」では「ある」と回答した男子は35.6%、女子は39.0%であり、男女間に有意差は認められなかった。

「デート相手」の有無に対して、「いる」と回答した男

表 2. 各性行動における初経験の時期

| | 小学生 | | 中学生 | | 高専入学後 | | 未回答 | |
|---------------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|--------|
| | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 |
| キス経験 (n=235) | 17(10.9) | 11(13.9) | 96(61.5) | 34(43.0) | 33(21.2) | 32(40.5) | 10(6.4) | 2(2.5) |
| ペッティング経験 (n=125) | 9(11.1) | 4(9.1) | 40(49.4) | 17(38.6) | 30(37.0) | 22(50.0) | 2(2.5) | 1(2.3) |
| 性交経験 (n=92) | 2(4.0) | 3(7.1) | 29(58.0) | 9(21.4) | 18(36.0) | 30(71.4) | 1(2.0) | 0(0.0) |

表 3. 性に関する情報源

| | 友人 | 雑誌 | インターネット | 学校 | テレビ | ビデオ | 専門書 | 家庭 | その他 | 未回答 | χ ² 検定 |
|-----------|-----------|----------|----------|---------|---------|---------|--------|--------|---------|----------|-------------------|
| 男 (n=620) | 274(44.2) | 74(11.9) | 87(14.0) | 39(6.3) | 19(3.1) | 14(2.3) | 7(1.1) | 4(0.6) | 21(3.4) | 81(13.1) | ** |
| 女 (n=182) | 114(62.6) | 20(11.0) | 9(4.9) | 13(7.1) | 2(1.1) | 0(0.0) | 1(0.5) | 2(1.1) | 2(1.1) | 19(10.4) | |

**： p < 0.01

表 4. 性に関する悩みや不安の相談相手

| | 友人 | 母親 | 父親 | 先輩 | 兄弟 | その他 | 未回答 | χ ² 検定 |
|-----------|-----------|---------|---------|--------|--------|---------|-----------|-------------------|
| 男 (n=614) | 365(58.9) | 10(1.6) | 12(1.9) | 1(0.2) | 6(1.0) | 55(8.9) | 165(26.6) | *** |
| 女 (n=180) | 132(72.5) | 13(7.1) | 0(0.0) | 0(0.0) | 4(2.2) | 6(3.3) | 25(13.7) | |

***： p < 0.001

子は14.7%、女子は29.7%であり、男女間に有意差が認められた (p<0.001)。これに関して、入谷仁士ら⁸⁾による同様の調査では、「いる」と回答した割合が、男子22.4%、女子27.2%であった。本校男子の「ある」と回答した割合が女子と比べて低いことが分かった。

「キス経験」では「ある」と回答した男子は25.3%、女子は43.4%であり、男女間に有意差が認められ (p<0.001)、女子では、およそ2人に1人の割合で経験しているという結果であった。

「ペッティング経験」では「ある」と回答した男子は13.1%、女子は24.2%であり、男女間に有意差が認められた (p<0.001)。

「性交経験」では、「ある」と回答した男子は7.9%、女子は23.1%であり、男女間に有意差が認められた (p<0.001)。男子に比して、女子の性交経験率が高いことが分かった。

また、先に述べた「性に関する関心、異性への接近欲求」と「性行動」とは一致しないことが確認された。

次に、表2では「性交の初経験時期」を示したが、男子では中学生時に経験している者が最も多く58.0%、女

子では高専入学後に経験している者が71.4%と最も多いことが分かった。

「性に関する悩みや不安」では「ある」と回答した男子は12.7%、女子は17.6%であり、男女間で有意差が認められた (p<0.05)。これは、女子が性交などに対して受け身であるということが関係していると推察される。

3.2. 性に関する情報源、悩みの相談相手について

表3および表4には、性に関する情報源および悩みの相談相手についての回答結果を示した。

「性に関する情報源」では、男女ともに「友人」と回答した者が最も多く男子50.8%、女子69.6%であった。次いで、男子では「インターネット」と回答したものが多く13.6%で、女子では「雑誌」と回答したものが多く12.3%であった。

また、「性に関する悩みや相談相手」についても、男女ともに「友人」と回答したものが最も多く男子80.2%、女子84.1%であった。これは、現代の若者の性意識や性行動が、友人関係によって支えられている様子をうかがい知る結果となった。

表 5. 性に関する知りたい内容 (n=802)

| | 大変知りたい | | 少し知りたい | | 知りたくない | | 未回答 | | χ^2 検定 |
|--------|-----------|----------|-----------|-----------|-----------|----------|--------|--------|-------------|
| | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | |
| 性行為感染症 | 146(23.5) | 52(28.6) | 339(54.7) | 101(55.5) | 127(20.5) | 23(12.6) | 8(1.3) | 6(3.3) | * |
| 避妊 | 169(27.3) | 62(34.1) | 315(50.8) | 92(50.5) | 127(20.5) | 21(11.5) | 9(1.5) | 7(3.8) | * |
| 妊娠 | 127(20.5) | 50(27.5) | 340(54.8) | 105(57.7) | 144(23.2) | 21(11.5) | 9(1.5) | 6(3.3) | ** |
| 人工妊娠中絶 | 117(18.9) | 44(24.2) | 320(51.6) | 99(54.4) | 175(28.2) | 34(18.7) | 8(1.3) | 5(2.7) | * |
| 性器の仕組み | 118(19.0) | 19(10.4) | 306(49.4) | 93(51.1) | 188(30.3) | 64(35.2) | 8(1.3) | 6(3.3) | * |

** : $p < 0.01$, * : $p < 0.05$

表 6. 性交を求められた際の対応

| | 男 (n=620) | 女 (n=182) | χ^2 検定 |
|------------------|-----------|-----------|-------------|
| その時にならなければ、分からない | 238(38.4) | 74(40.7) | |
| 避妊・性感染症予防を求め性交する | 91(14.7) | 20(11.0) | |
| 雰囲気によっては性交する | 90(14.5) | 30(16.5) | |
| 相手の要求を受け入れる | 123(19.8) | 11(6.0) | *** |
| 絶対拒否する | 33(5.3) | 27(14.8) | |
| よく話し合い、性交しない | 35(5.6) | 17(9.3) | |
| 未回答 | 10(1.6) | 3(1.6) | |

*** : $p < 0.001$

3.3. 性に関する知りたい内容について

表 5 には、性に関する知りたい内容についての回答結果を示した。

「性行為感染症」では、「大変知りたい」と回答した男子は 23.9%、女子は 29.5%、「少し知りたい」と回答した男子は 55.4%、女子は 57.4%、また「知りたくない」と回答した男子は 20.8%、女子は 13.1%であった。

「避妊」では、「大変知りたい」と回答した男子は 27.7%、女子は 35.4%、「少し知りたい」と回答した男子 51.6%、女子 52.6%、また、「知りたくない」と回答した男子は 20.8%、女子は 12.0%であった。男女ともに「知りたい」と考えている割合が多く、特に女子の割合が高い。これは、女子の望まない妊娠などに対する現実的な考えがあると推察される。

「妊娠」で、「大変知りたい」と回答した男子は 20.8%、女子は 24.9%、「少し知りたい」と回答した男子は 52.3%、女子は 55.9%、また、「知りたくない」と回答した男子は 28.6%、女子は 19.2%であった。

「人工妊娠中絶」で、「大変知りたい」と回答した男子は 19.1%、女子は 24.9%、「少し知りたい」と回答した男子は 52.3%、女子は 55.9%、また、「知りたくない」と

と回答した男子は 28.6%、女子は 19.2%であった。

「性器の仕組み」では、「大変知りたい」と回答した男子は 19.4%、女子は 10.8%、「少し知りたい」と回答した男子は 49.9%、女子は 52.8%であった。一方、「知りたくない」と回答した男子は 30.7%、女子は 36.4%であった。これは、「性器」という言葉に対しての“いやらしさ”や“恥ずかしさ”をイメージし、聞きたくない、見たくないという意識がはたらくと考えられる。

3.4. 性交を求められた際の対応について

表 6 には、性交を求められた際の対応についての回答結果を示した。

「性交を求められたらどうするか?」という質問に対し、6つの項目から選択してもらった結果、男女ともに「その時にならなければ、分からない」と回答したものが最も多く男子 39.0%、女子 41.3%と、ほぼ同じ割合であった。次に割合の多かった回答は、男子で「相手の要求を受け入れる。」20.2%、女子で「雰囲気によっては性交する」16.8%であった。これらの回答は、正直な気持ちであろうが、16歳の若者として、このような意識でよいものか危惧するところであり、近年の傾向として、若者の性行動への積極化、開放化が影響していると示唆される。

4. まとめ

実際の教育場面に活用できうる知見を得ることを目的に、本校1年生を対象に性意識・性行動に関する調査を実施した結果、以下のことが明らかになった。

- 1) 「性に関する関心」や「異性への接近欲求」は男子の方が女子よりも強かった。
- 2) 「キス経験」は男子で 25.3%、女子で 43.4%、「ペッティング経験」は男子で 13.1%、女子で 24.2%、「性交経験」は男子で 7.9%、女子で 23.1%と、いずれも男子に比して女子の経験率が高いことがわかった。
- 3) 「性交の初経験の時期」は、男子では中学生時に経験しているもの最も多く、女子では高専入学後に経験しているものが圧倒的に多いことがわかった。
- 4) 「性に関する情報源」「性に関する悩みや不安の相談相手」では、男女ともに「友人」と回答したものが最も多いことがわかった。現代の若者の性意識や性行動が、友人関係によって支えられている様子をうかがい知る結果となった。
- 5) 「性に関する知りたい内容」では、「性行為感染症」「避妊」「妊娠」「人工妊娠中絶」の項目で「知りたい」と回答したものが男女とも7割を超える結果となった。しかしながら、「性器の仕組み」については、「知りたくない」と回答したものが男女とも3割程度いることもわかった。「性器」ということばへの負のイメージが影響しているのではないかと考えられる。
- 6) 「性交を求められた際の対応」では、男女ともに「その時にならなければ、分からない。」と回答したものが最も多く男子 39.0%、女子 41.3%と、ほぼ同じ割合であった。次に割合の多かった回答は、男子で「相手の要求を受け入れる。」20.2%、女子で「雰囲気によっては性交する」16.8%であった。これらの回答は、正直な気持ちであろうが、16歳の若者として、このような意識でよいのか危惧するところであり、性に関する適切な指導が必要であると、あらためて確認できた。

今後、個人のプライバシーに配慮することを大前提に、2～5年生に対しての実態調査、ならびに、調査項目の充実・精査をおこない、学生指導に役立てていきたいと

考える。

付記:本研究の一部は、第54回日本学校保健学会(2007.9,千葉)において発表した。

文献

- 1) 日本性教育協会編:中学生高校生大学生の性行動白書,小学館,1988
- 2) 日本性教育協会編:青少年の行動—わが国の高校生大学生に関する調査報告—,小学館,1994
- 3) 日本性教育協会編:青少年の性行動(第4回),日本性教育協会,1994
- 4) 東京都幼稚園・小・中・高・心障性教育研究会:児童・生徒の性—東京都幼・小・中・高・心障学級・養護学校の性意識に関する調査報告—,1996
- 5) 久野孝子,衛藤隆,小林正子,下方浩史:高校生の性に関する意志決定とアイデンティティとの関係,学校保健研究,41,1999,309-319
- 6) 原 純輔:青少年の性行動と性意識20年の軌跡,現代性教育研究月報,13(12),1-3,1995
- 7) 佐藤龍三郎,兵井伸行,福島富士子他:高校生の性知識,性役割観,性行動に関する研究(第1報),思春期学,13(3),243-248,1995
- 8) 入谷仁士,木村龍雄,野地照樹,山本和代,下村美佳子:高校生の性意識及び性行動に関する研究—性交経験の有無と性に関する知識のニーズ及び悩みについて—,学校保健研究,42(3),245-255,2000
- 9) 小谷衣里,小松あかね,佐々木純一,目崎登:茨城県における10代の妊娠の実態調査,思春期学,14(3),281-285,1996
- 10) 東京都幼稚園・小・中・高・心障性教育研究会:児童・生徒の性—東京都幼・小・中・高・心障学級・養護学校の性意識に関する調査報告—,2002
- 11) 石尾潤,藤岩秀樹,中村貢治,西田益子:高専生の性意識・性行動に関する調査研究—本校1年生の現状から—,宇部工業高等専門学校研究報告,51,57-61,2005.3